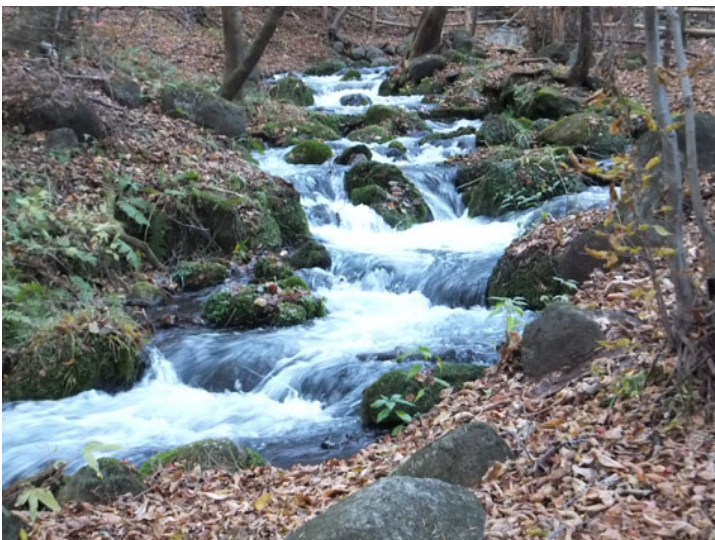


第38回水生昆虫研究会の研究発表報告

第38回水生昆虫研究会が11月22-24日に栃木県塩谷町の星ふる学校「くまの木」にて開催されました（全国から44名が参加）。塘研究室で磐梯朝日遷移プロジェクトと関わった研究を実施している4名の学生が参加し、2名の大学院生が研究成果を発表しましたので、以下に研究会の様子を報告します。

22日の夕方に廃校を利用した宿泊研修施設・星降る学校「くまの木」に集合し、夕食後、7題の研究発表がありました。翌23日は企画セッション「放射能汚染問題とどう向き合うか？」から始まりました。今回の研究会開催会場がある塩谷町は栃木県の放射性物質を含む指定廃棄物の最終処分場詳細調査候補地であり、地元住民による大きな反対運動が行われており、町長も反対の立場を表明しています。特別報告として塩谷町の職員（指定廃棄物処分場対策班）の方から、塩谷町が最終処分場建設に反対する理由について、これまで水源の町として湧水地（尚仁沢湧水を含む湧水群）やブナ林を含む豊かな自然環境を守るために行ってきた取り組みを含めてお話を頂きました。続いて埼玉大学からは福島県の浜通り地域におけるトビケラ類（ヒゲナガカワトビケラ）を用いた放射性物質モニタリング調査の結果、地元栃木県の調査会社の方からは塩谷町を含む栃木県内から記録された水生昆虫類（カゲロウ類・カワゲラ類・トビケラ類）の紹介がそれぞれありました。休憩後、6題の研究発表があり、この中で博士後期課程1年の大平創くんが「福島県裏磐梯地域におけるオシマトビケラの遺伝的背景について」、前期課程2年の増渕翔太くんが「福島県内の河川に生息するヒメシロカゲロウ属2種の形態と生態(カゲロウ目:ヒメシロカゲロウ科)」とのタイトルで研究成果を発表しました。発表後、何人もの方から彼らが未調査の地域のサンプル提供の申し出や研究対象種の分布に関する情報を提供して頂きました。この日の午後はフィールドエクスカージョンで、私たちは鬼怒川や尚仁沢湧水地でサンプリングを実施しました。翌24日は午前中に10題の研究発表があり、お昼ちょっと過ぎに閉会となりました。

この会はじっくりとたくさんの方の研究発表を聴くことができ、毎晩お酒を飲みながらの議論が大いに盛り上がり、フィールドでのサンプリングも実施でき（私たちは研究会開始前に尚仁沢湧水が合流する荒川でもサンプリングしました）、と水生昆虫（底生動物）にどっぷり浸かれます。今回は発表しなかった4年生2人（武田悠太くん、難波元生くん）にとっても貴重な3日間となったものと思われま



尚仁沢湧水にて